

～45号—2016年10月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考える団体です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

NPO法人不登校情報センター

訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp (藤原) / 090-4953-6033(藤原)

不登校・ひきこもりの個別相談 行なっております

(予約制・ご相談料金3000円です。)

『特別企画 — 不登校・ひきこもり相談会』

- ★日 時 / 10月10日(祝) 13時から15時まで
- ★対 応 / 不登校情報センター代表 & 訪問サポート・トカネット代表
- ★場 所 / 不登校情報センター事務所 (JR 総武線「平井」駅・徒歩5分)
- ★参加費 / お一人様500円
- ★予約制 / お申込み順(予約先は上記) ★人 数 / 3名様

皆様こんにちは。いつの間にか10月になりました。本当に早いですね。

先月は、現在不登校やひきこもりの当事者、過去にそういった経験のある人たち、と「生きづらさを話してみよう～」「普通って何だろう？」…というテーマで、度々話し合う場を持ちました。

何年もひきこもって、やっと勇気をだしてアルバイトをしたけれど、みんなと同じことができなくて注意されてしまう、「そんなことも分からないの?」「さっき教えましたよね!」…、そう言われるたびに心が萎縮してしまう、体が固まってしまう。涙が出る。それでも頑張ってみるけれど、もう無理、自分を責めて、情けなくて、自信をなくしていく。

長い間の空白で、社会経験の無さで、社会に出ても周りが求めている普通のこと何なのかが分からないという。「とにかく普通になりたい…」、「どうしたら普通になれるの?」、「普通って何なんだ?」と、…話し疲れたころには、「普通なんてあるのかなあ?」、「普通って単なる理想? 幻想?」、「世の中のみんなが普通だと思って比較していたけど、どこにも普通なんてないのでは?」と、少しずつ変わっていきました…。

カウンセラー田井啓子さんの深読み

不登校情報センター「不登校・ひきこもり親会&ミニセミナー」に参加されているカウンセラー、田井啓子さんのブログからです。

親は未来を見つめ、子どもは今ここの気持ちに悩む (2016年9月23日)

今日も親業お疲れさまです

私自身もそうでしたが、親は今を問題だと捉えこれから先をどうしたらいいだろう？と未来を見る傾向があります

が・・・子どもは、今ここの気持ちに悩んでいたりします。

恐怖や不安と闘っていたりします。

今ここで恐怖や不安と闘っている人間に未来を見るような余裕はなかつたりします

今日を生き延びられるだろうか？といった恐怖や不安の中で未来の展望はなかなか描けません

そんな中で「どうするの？」「何を考えているの？」「どうしたらいいと思う？」という言葉への反応はしんどいものです

助けなくちゃいけない、何とかしなくちゃいけない、という思いはあなたの中の助けて欲しい、何とかしてほしいというあなたの心の叫びであつたりしないでしょうか。そうであれば、その気持ちを認めてみることで何かが変容し始めるかもしれません。

お子さんへ向かう意識をちょっと自分に向けてみてはいかががでしょうか。

未来だけを見ている意識を、ちょっと、今ここに合わせてみてはいかががでしょうか。

感受性が強いということ (2016年9月22日)

今日も親業お疲れさまです。

本日は不登校・ひきこもり親の会に参加させていただきました。

こちらの親の会には親だけではなく、不登校・ひきこもり経験者や学んでみたい学生の方なども参加します。

親子では、なかなか直接聞きにくいことや知りたいことなどを尋ねられる機会でもあります。

本日参加されていた経験者の20代女性と感覚的であるということについて会話をしました。

その中で出たことをシェアさせていただきます。

その女性が親の会に参加してみて感じることで目に見えるところのことについて会話している。

表面的に何をしているかということではなく今、どんな気持ちでいるのかというところを見て欲しい。

そこを理解してもらいたい。

親も、自分自身の気持ちに気づいてほしい。

そこを見てもらいたい。

感覚は、言葉にならないと話されていました。

恐らく、多くの感受性が強いお子さんに共通していることだと思います。

言葉を使うことがあたりまえで目に見えることが重要だという信念が深く浸透していると、なかなかわかりにくいことかもしれませんが

「感受性の強い、感覚的な人もいる」

と保護者をはじめ、教育に携わる方たちが知るだけでも対応が変わってくると思います。

感覚的に理解するには自分の感情や感覚に意識を向けてみることをオススメします。

どうしても怖くて足を一歩前に出すことができない時。

どうしたら足を一歩前に出せるようになるのかとあれこれ方法を探したり、対策を練ったり励ましたり、脅してみたりなんてことになりがちですが

足を一歩前に出すことが怖くてできないってどれほどの恐怖心なのか

というところを意識されてみてはいかがでしょうか。

就労以前に生活リズムづくりが必要

松田武己(不登校情報センター)

内閣府は「若者の生活に関する調査」を発表しました(9月7日)。そのなかでは引きこもりは2010年の69.6万人から、54.1万人に減りました。5年間で約15万人の減少です。また現在引きこもりである人の34.7%が「7年以上続いている」状態で、長期化し深刻になっています。

この報告を見て、9月の「大人の引きこもりを考える教室」の場で簡単なテキストを報告しました。その2章にあたる「長期の引きこもりの深刻な状態への対応」の部分をやや詳しく書きます。

内閣府調査は長期の引きこもりの深刻な状態への対応が重要だといいます。「大人の引きこもりを考える教室」でこれまで話し考えてきたことの多くはこの問題です。

親の会の運営に関して、母親Oさんが書いてきました。「30代後半のひきこもりの娘と息子の母親です。希望テーマは①生活リズムの作り方、②ネット依存をどうしたら、③親なきあとの生活…など。とりわけ③について日々悩んでいます」。これらを話していただいたいという提案です。

就労が最優先の目標になっていません。まず目標になるのは「生活リズム」の確立です。親がこのような目標を持つに至るのはそれまでの家族内でのいろいろな出来事の結果でしょう。子どもの状態と必要なこと、当面の目標をどこに置くのか、現実をよく見てきたことがうかがえます。

引きこもり経験者のSくんは当事者の側からこれを見ました。「『ひきこもり理解と支援の促進』学習会における当事者の報告」(2015年1月)での発表です。報告には仕事、社会復帰、支援者、高年齢当事者が困っていることが含まれます。

初めに「仕事、社会復帰」をあげています。「一人で黙々と作業ができ、人間関係の薄い、あまり監視や干渉のない現場が向いている」。これはSくん自身の体験と情報センターなどで実際に接触した元引きこもりの経験を織りこんだ要約です。親なきあとの問題では住宅問題が重要テーマになります。

これとOさんの提案を合わせてみると、長期化し深刻化している引きこもりの対応のポイントが見えてきます。いきなり就労を迫るのは引きこもりをよく知らない人です。彼ら彼女らは社会の異様さ関知し、無意識のうちに社会のゆがみに巻き込まれるのを回避してきた、私にはそのように見えます。社会的引きこもりとはその結果です。

現在の就労状態を見ると、一方ではブラックと呼ばれる長時間労働が蔓延し、他方ではそれを回避した結果の「働くに働けない」人が広がり、両極に社会の難問が置かれています。いずれの側にも個人的な性格や機会の巡りあわせや運不運が関係しますが、大きな社会的な背景があると考えないわけにはいません。

そのうち、社会のゆがみに巻き込まれるのを回避し、ひきこもっている場合への対処が私たちの直面するテーマになります。長期化し深刻化している人はどうするのか、対応策とか支援策はどんなものか、それはきわめて個別的になります。

そのなかで母親Oさんが提案している生活リズムづくりは多数の人に有効な提案です。家族以外の人と関わるために定期的に会う機会、定期的に外出する機会が生活リズムづくりのテコになります。その具体策となるのが、訪問活動や居場所です。

そして訪問活動や居場所に参加することで、ある状態に到達すれば当事者はその人なりのスタイルでこの生活リズムの主体に移ります。訪問を受けていた人が役所や居場所に行きます。自分にできそうなアルバイトを始めたり、密かに取り組んでいたことを信頼できる人に見せたりします。支援を受ける側から同伴者や企画者になるのはその方法です。興味・関心(ネット関連、介護などの福祉関係、創作系が多い)を生かす人も少なからずいます。

これらの動きは、引きこもりをとりまく社会全体の様子が社会問題として同時に深刻さを増しているなかでの事態です。周辺の社会問題、社会運動と並行しながら協力して取り組む時期に入りました。

新しく法律や制度ができて自動的に「自分にとっても」有効になるのではありません。まずは法律や制度として確立する。社会的に合意していたことを当事者・弱者の視点から変更を求める。それらを当事者側が望む方向で運用するように働きかけるのです。社会の異様さやゆがみはそれに気づいた人が取り上げていくしかないのです。

生活保護制度に加えて生活困窮者自立支援法が成立しました(2015年)。ほかにもいろいろな制度ができ動きがでています。それらの法律も運用や条件の適用などをこちらから働きかけない限り、それを扱う行政者からは活用できる道は示されません。ある人の動きを考えたとき、実際にそうでもしなければ前進しない壁を経験します。

不登校情報センターの親の会の運営を改善・向上させたいと思うのはこの点にも関係します。OさんやSくんが提起したことはここに関係していきます。引きこもり個別の問題を探りながら、周辺の社会問題と関連づけながら前進を図ることです。

不登校情報センターの親の会は、グループ相談的な面を継続しながらこれらの視点が必要になったと思います。それは高齢化している親にとっては難しい面もあります。家族の参加、当事者の参加が必要とされます。KHJが親の会から家族会に変わったのは賢明な選択だと思います。私は特に引きこもりの当事者にこの分野での働きを期待しています。

◆今後のお知らせ

★大学生や社会人による、不登校やひきこもりの人への訪問サポート(メンタルフレンド・同行サポート)を1998年から行っています。
サポーターとか関わる事で、どのように学校や就労を含めた社会参加に繋がっていくのかを中心に具体的に話します。

(1) 訪問サポート(メンタルフレンド・同行サポート) 説明日

*日時: 10月 16日(日)、13時~。(※参加費: 500円)

*対象: 親ご様(対象お子様年齢10~30代)

★お一人でも行います。

(2) 不登校・ひきこもりの親の会 & ミニセミナー

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと...など複数の専門家と一緒に考えていきます。

*日時: 10月 23日(日)、13時~。

*参加費: お一人・500円。

*対象: 10代および20代の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*日時: 10月 9日(日)、13時~15時。

*参加費: お一人・500円。

*対象: 30代以上のひきこもりのご家族・経験者・学びたい人。

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所: 不登校情報センター(◆交通機関: JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分)

◎地図は、下記のホームページ(URL)をご参照ください。



- 不登校情報センター
- 訪問サポート・トカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先・予約先

TEL / 03-5875-3730 / 090-4953-6033 (藤原)

E-mail / tokenet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL / <http://tokenet.info>